

〔優秀賞〕

◇ オリンピックを通して学んだ男女平等 ◇

吉水小学校 5年 高田 俊介

今年の夏、ぼくはパリオリンピックに熱中した。今年はパリオリンピックが開さいされていて、男女がたくさんの競技で今までの努力の成果を競い合っている。見ていると、どの競技も男女がそれぞれ参加しているように見えた。そこで、最初からこんなにもたくさんの男女の選手が参加していたのかを調べたいと思った。

オリンピックのことを調べていくと、初めて知ることがたくさんあった。オリンピックの始まりは120年以上も前に第1回大会が外国で開さいされたが、男性のみ参加が許されていて、女性は参加が許されていなかった。女性が選手として初めてオリンピックに参加できるようになったのは第2回大会からで、997人の選手の内、女性は22人の参加で、女子種目はテニスとゴルフだけだった。その後、フィギアスケート、水泳などが女子種目として加わった。その中で、メダルをかくとくした女性選手たちがスポーツの大切さについて、たくさんの人々に伝えていき、回数を重ねるごとに競技の数と女性選手の数もふえていった。10年くらい前に、女性の参加を全体の半分にするという目標を決めて、2020年の東京オリンピックでは、女性の参加が今までで一番多くなった。

ぼくはその事を知って、スポーツをするのに平等ではないなと思った。そこで、なぜ昔は女性がオリンピックに参加できなかったかを考えてみた。それは、男性は体を動かして、女性は家で家事をしているというような、男

女の差別があったのではないかと思った。男性だけのオリンピックよりも、男性も女性も活やくできる今のオリンピックの方が、世界中の人が見て、応えんしたいと思える楽しいオリンピックだとぼくは思う。オリンピックを見ていると、応えんしている人々もテレビにうつる。男性が女性選手を応えんし、女性も男性選手を応えんしている。選手を応えんする人も男女関係なく、一生けん命だ。見ているぼくも、気づいたら色々な世界のたくさんの男性選手、女性選手を応えんしていた。今のオリンピックには男女差別はないと思う。

ぼくも学校のクラス遊びは、男子と女子が一緒になって遊ぶし、家庭科の授業では、さいほうや料理をべん強する。男子も女子も同じことをべん強して、スポーツも自由にできる今は、すごく良い時代だと思った。オリンピックを通して、男女の性別関係なく、それぞれのとく意な事で活やくできる事が男女平等だと感じた。世界中の人が、男女の差別を受けることなく、べん強をして、スポーツができるようになってほしいと思う。そして、これからもぼく自身が男子だから、女子だからと決めつけしないで、おたがいの話を聞いて、気持ちや考えを伝え合うこと、協力し合うこと、それがぼくにできる男女平等への行動だと思う。